

# 令和7年度 自己評価結果公表シート

福音幼稚園

## 1. 本園の教育目標

- ・キリスト教精神（愛・信・望）に基づき、神さまの恵みによって生かされていることを知り、感謝の心と希望と勇気をもって生きていく心を育てる。
- ・友だちとの交わりの中で自分を大切に、友だちを大切に思う優しい心を養う。
- ・遊びの中で自分で工夫し、仲間といっしょに事を成し遂げ、共に喜びを分かちあえる子どもに育てる。
- ・遊びを通してのびのびと身体を動かし、体力をつけ、心身共にバランスのとれた子どもに育てる。

## 2. 本年度に重点的に取り組む目標・計画

評価項目に沿って自己点検・自己評価・相互評価することによって教職員が自ら創意工夫する力を強め、保育内容の改善・自己啓発に取り組むことを目標とする。

## 3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
○幼児教育の在り方と質の向上	<ul style="list-style-type: none"><li>・縦の繋がりを大切にし、全学年合同での活動を行い、異年齢との関わりの機会を意識している。</li><li>・日々の保育の課題をその都度、職員間で話し合い、一人ひとりの子どもにあった援助を行えるように努めている。</li><li>・子どもの発達年齢に適した教材であるか保育者間で話し合い、提供している。</li><li>・子どもたちが自分で考え、行動出来る環境づくりを行っている。</li><li>・<u>五領域</u>に応じて、毎日のカリキュラムを作成している。 五領域とは 【1】健康：心と体の健康を維持するための領域 【2】人間関係：周囲の人とのコミュニケーション力を育てる領域 【3】環境：身近にあるさまざまな環境に意識を向ける領域 【4】言葉：言葉を聞き、話すことを身につける領域 【5】表現：想いや感じたことを表現する領域</li><li>・日々の保育の後には報告や振り返り、反省の時間を持ち、より、子どもたちにとって良いものになるように目指す。</li><li>・関係機関が行う各種研修会に参加し、専門知識を深めている。又、職員間で共有し合っている。</li><li>・月一度の職員会議などで 全園児の様子を職員で報告し合い子どもの成長、発達を共有している。</li></ul>
○保護者との連携	<ul style="list-style-type: none"><li>・日々の保育中の幼児の様子を、保育者と保護者でよく話し合い、より良い保育、子どもの成長を見守れる環境を作っている。</li><li>・1学期、2学期末に個人懇談会を行い、家庭と保育中の子どもの様子を共有する場を作る。</li><li>・より密な話し合いが必要な時は、個別に園長、担任、保護者と話し合う時間をとっている。</li><li>・保護者の方と連携がとりやすいよう、連絡帳を使用している。</li><li>・クラスだよりやドキュメンテーションで日々の保育内容、子どもの成長を伝えている。</li></ul>

○幼稚園・小学校の連携	・小学校生活が円滑に始められるよう各小学校と連絡を取り合っている。
○安全管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の行動をよく見守り、園内施設の安全点検を月に一度行い対処する。</li> <li>・天災等、非常時に備え年に4回以上避難訓練を行い、知識を深め、防災意識を高める。</li> <li>・全保護者、全職員を対象に災害時における一斉連絡サービスに加入している。</li> <li>・災害時の役割を職員間でしっかりと把握している。</li> </ul>
保健・感染予防対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消毒液 次亜塩素酸水生成装置の設置。 (コロナにも有効で人体に安全な消毒液)</li> <li>・園庭、ベランダに遮光ネットを設置。</li> </ul>

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の統合的な評価結果

- ・全教職員が全園児のことを十分理解して向き合うという目標をしっかりと充実できる様話し合い、一人ひとりにとってより良い保育環境を作るよう努めた。
- ・保護者の方々の園教育への理解と協力で園活動の運営を円滑に行うことができた。

#### 5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
危機管理・安全管理体制の整備	・災害に備えた避難訓練や防犯訓練をあらゆる場面を想定して実施する。
園児数減少の改善	・園児数の減少が続いている。建学の精神に則り、子どもたちを大切にした保育を行うのはもちろんのこと、未就園児親子教室などの地域のニーズに合わせたサービスを実施する。

#### 6. 学校関係者の評価

資料にもとづき審議の結果、特に指摘すべき事項はなく妥当であると認められる。